

「やれない、できない、は言わない」。その言葉通り、どんな困難な仕事も引き受け、建物の省エネ化に56年間携わってきた職人がいる。保温保冷（断熱）工事を手掛けるナイガイ（墨田区）の嶋原茂さん（74歳）だ。1969年に二本松工業高校を卒業後、ナイガイの前身となる内外アスベストに入社。以来、断熱パネルや消音機の製造に携わり、現場での施工経験も積んだ。国内外のさまざまな建物の工事に携わってきた。「海外の日本大使館での防音工事中に34回目の誕生日を迎えたことは、忘れられない思い出だ」と話す。



長年の知識と経験が  
100年企業を支える



ナイガイ（墨田区）  
嶋原 茂さん  
嶋原 茂さん

空調効率を高め、省エネに貢献する保温保冷工事は、脱炭素社会の実現に向けて、重要性が高まっている。嶋原さんが手掛ける消音機は、建物や空調によって求められる性能が異なるため、多くが受注生産で、手作業で組み立てる。

改修工事では、数十年前の古いモデルにも対応しなければならない。図面もデータもない中で、現在のモデルを調整し、現場に合わせた製品を作り出す。「商品の歴史を知っているからこそ、イレギュラーなケースにも対応できる」。嶋原さんの知識と経験は、老朽化した建物の改修に欠かせない。（大西正太）